

平成30年度(2018年度)第1回豊中市総合教育会議 議事録

1. 日時

平成30年(2018年)8月21日(火) 午前9時30分～10時30分

2. 場所

豊中市役所 第一庁舎6階 教育委員室

3. 出席者

市 長	長 内 繁 樹
教 育 長	岩 元 義 継
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	船 曳 弘 栄
教育委員会委員	奥 田 至 蔵
教育委員会委員	藤 原 道 子
教育委員会委員	橋 本 和 明
教育委員会委員	森 由 香

4. 案件

- (1) 基本政策について
- (2) 「豊中市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」素案について
- (3) その他

5. 出席職員

政策企画部

部	長	榎本	弘志
企画調整課	長	佐野	健二
企画調整課	企画調整係長	石村	知子

企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	福山	隆志
企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	田中	克嘉
企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	岩下	良輔
企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	定光	絵里

教育委員会事務局

事務局	長	吉田	久芳
教育	監	田中	彰治
次	長	藤原	二郎
教育総務課	課長補佐	湯浅	安由里

6. 議事

【基本政策について】

(長内市長)

- ・首長と教育委員会が同じ方向を向いて、その運営について様々な意見交換などを行いながら、さらに豊中の教育を高めていきたい。
- ・市民の方は変化を求めておられ、よい方向に変化を、さらに向上という形での変化を求めておられるということを意識して、これからもみなさま方と連携を図りながら、市政・教育全般にわたり活発な議論を行い、豊中市をさらによくしていきたい。
- ・本日は、「教育文化先進都市 とよなか」など、基本政策について私から説明し、教育委員会のみなさまと協議させていただき、次に、大綱について協議させていただきたい。

(長内市長)

- ・この基本政策は、私の基本理念である「未来につなぐ創る改革～人と地域が活きるまちづくり～」に基づき、私の任期中に取り組む政策を取りまとめたもので、5つの政策の柱と3つの重点プロジェクトで構成している。
- ・教育に関しましては、一つめの政策の柱を「教育文化先進都市 とよなか」として、「子育て安心プランの策定・推進」、「魅力ある学校づくりの推進」、「公教育の充実」、「中央図書館構想・郷土資料館構想の策定」などを掲げている。
- ・3つの重点プロジェクトにつきましては、54の政策項目のうち特に重点的・優先的に進める政策項目から成っており、魅力ある学校づくりの推進・公教育の充実などの「こどもの夢実現プロジェクト」、「人生100年充実プロジェクト」、「改革刷新プロジェクト」を掲げている。
- ・この基本政策の中に挙げている訳ではないが、豊中市の市政を進めるうえでこれから大切にしていきたいと思っているのは、市民文化の発展について、さらに力を入れていきたい。
- ・もう一つ、ダイバーシティの視点をしっかりと市政のうえに活かしていきたい。

(森委員)

- ・ダイバーシティに関して、豊中市はダイバーシティの視点を大事にしますと宣言することも重要だが、現に活動している市民団体、NPO、その他の団体との連携も重要ではないか。
- ・今回の政策の中でいうとどこにダイバーシティの視点が組み込まれているのか。

(長内市長)

- ・ダイバーシティの視点については、基本政策ではなくて、基本理念に近いところがあるので、具体的な政策項目としては挙がっていない。
- ・7月議会においての所信表明のなかで、人権尊重について述べており、憲法や自治基本条例に基づいて市政を進めていくということ。そこでダイバーシティの視点についても含めて述べさせていただいた。

(森委員)

- ・政策なり言葉で示さないと伝わりにくい部分がある。
- ・例えば、大阪市は早い段階でダイバーシティの視点を盛り込んでダイバーシティに関する部局や課を設置している。そういった形で示した方が、豊中市がこういったところを大事にするという主張にもなるのではないか。
- ・教育に関しては、文部科学省もセクシャルマイノリティの子どもにどのように配慮をしていくかという方針を示している。そういったことに関して文章で示していくということも必要ではないか。

(長内市長)

- ・豊中市においては、これからの部分もあるので、ダイバーシティの視点についてはこれから進めていかなければいけない取り組みの課題として考えている。

(橋本委員)

- ・「類似性」と「差異性」は「違い」と似ていると取り上げられることがある。
- ・類似性は、組織を維持するというところに役に立ち、維持するために非常によいと思うが、発展するためには「違い」が非常に大事で、違いがあるからこそ次のステップに上がっていくことができる。
- ・これから改革し、発展していくためには「違い」に焦点を置いた取り組みというのは非常に大切である。

(長内市長)

- ・豊中市はスタンダードな水準での行政レベルが高く、地域みなさんも満足されていると思っていたが、そうではなく、今まで市役所と関係する団体とだけ話をしていたと思った。
- ・違いを求め、新たな変化を求める声や、さらに発展させてください、さらによくしてくださいという声を地域の方から多くいただいた。
- ・発展のために変化が必要であり、違いが必要だと思っている。

(藤原委員)

- ・重点プロジェクトのなかに「子ども夢実現プロジェクト」とあるが、子ども全体を支えていくには、大人の問題もすごく大きい。
- ・「人生100年充実プロジェクト」とあり、市民文化を活性化して、大人が充実した人生を歩む、取り組む範囲は広いと思うが、その点に重点を置くということは、公教育の充実にもつながる。
- ・すぐに効果が見えるものではなくて、底上げという部分も含めて重点とすると、豊中市全体の「いきいき」に一番近道だと思う。

(長内市長)

- ・人生100年の充実というのは本当に現実となってきた。
- ・豊中市においても毎年100歳を迎えられる方が多くおられる。
- ・年齢を重ねることだけではなくて100歳に至るまでにいかに人生の質を高めていただくかが、まちの発展にもつながると考えている。

(藤原委員)

- ・まだ定年が60歳というところもある。まだまだ社会で活躍できるのに、その人にとってももったいないし、地域社会にとってももったいないと思う。
- ・施設や公園などの管理について、組織化して自分たちで管理するというような取り組みを行い、税金の使い方、地域の活性化、自身の充実など色々な面で「生涯現役促進事業の推進」を具体化することが、後の子ども達の未来にもつながっていくと思う。

(長内市長)

- ・さらに平均寿命や健康寿命を延ばすためには、働く期間を長くすることが大切だと思う。
- ・仕事は70歳くらいまでとしたとして、それ以降のことを考えてみると、これまでは老人クラブなどがあったと思うが、現在の世代の方は参加しない方が多いのではないかな。
- ・働いてきた組織と同様な社会を地域社会の中で作るのがよいのではないかなと思っっている。
- ・2年ほど前から豊中市では地域創生塾という取り組みが始まっており、それは高齢者だけではなく、このようなことに特化したような、新たな自分のライフプランを見つけてもらえるような取り組みを考えていかなければならない。
- ・他世代との交流も少なくなっているなので、同じ世代だけではなく、世代を超えての交流できるような取り組みも必要であり、しっかり現状を見て取り組んでいく。

(船曳委員)

- ・基本政策の中で一番気になったのは、35人学級の編制
- ・1、2年生については、既に国費又は府費で35人学級を実施している。
- ・豊中市として、色々な課題や地域事情によって人数が少なかったりする場合に、少人数学級編制を行い、先生方からは助かったという声や学校全体がよくなったという話を聞く。
- ・35人学級編制を全学年でできるというのは素晴らしいことで、そのために人の確保や財源も必要にもなるが、お金がないと教育は成り立たないという部分もあると思う。
- ・大人社会を充実させる雇用の確保につながるようになればよいと思う。

(長内市長)

- ・現在は子どもの数は減っているのに、なかなかうまくいっていないのはなぜなのか、これは子どもだけの問題ではないと思うことがある。
- ・学校現場で教員のみなさんが大変苦労していて、子どもだけではなく、保護者とも向き合わなければならないことが多々ある。
- ・35人学級にすることによって教員から子ども一人ひとりに目を向けられる時間が増えるということも想定している。
- ・教室数の確保も必要になりお金もかかるが、豊中全体で考えると今やっておかなければならないのではないか、そのために創る改革の中において生み出したお金を公教育に充てていくということを大きく最初に打ち出し、豊中の教育や子どもの生活、学習のあり方も含めて変えていけたらと思う。
- ・7月の市議会においても費用対効果についての質問を受け、効果は出ると思うがコストパフォーマンスだけを求められると難しい部分があり、やってみないと分からないことはある。
- ・ただし、教育委員会において学級編制等についてしっかりと検討のうえ、どこから進めていくのか、その中でもできるところとできないところもあると思うが、現場の実情に応じて段階的に進めて効果が出るようにしたいと考えている。

(奥田委員)

- ・施策項目のNo. 4に「児童発達支援の充実」というのがあるが、大人も子供も含めて発達障害というのが社会問題になっている。
- ・「児童発達支援の充実（児童発達支援センターの設置など）」と書かれていて、発達障害の子どもも含めた新たな施設が検討されていると思っているがどうか。

(長内市長)

- ・児童発達支援については、現在子どもの約8%から10%が発達障害ではないかという状況がある。
- ・もう少し早く分かっていたら親も本人もそれなりに受け止めることで、違う学生生活や就職ができたのではないか、あるいは別の方法があったのではないかというところを見てきた。
- ・豊中市の保健所長に話を聞くと、学力はあっても社会適応能力に問題があり、引きこもってしまったり、学校を辞めてしまったり、大学を卒業はできても社会に出た時に適応できないというジレンマに悩まされるという事例が多いと聞いた。
- ・しっかり診断をして自分の症例を分かる方は分かってもらったうえで周りにも理解してもらい、自分のこれから先を決めてもらうことが必要だと思う。
- ・一生涯を通じて、生まれてから大人になっても支援できるような支援センターを豊中市でつくっていきたいと考えている。
- ・発達障害の子どもが自分のことについて受け入れ、同じような症状をかかえるような保護者も一緒に向き合い、社会に出て戸惑うことがないように進めていきたい。

(奥田委員)

- ・学校や教育センター、文化館、保健所など色々な役割での施設はたくさんありますが、お互いが連携しながら一生涯サポートできるような仕組みづくりをお願いします。

(橋本委員)

- ・障害の種別に関わりなくと書かれているが、虐待を受けた子どもが愛着障害という問題をかかり持っている、特に発達障害の子どもは虐待を受けやすいということがあ
- る。
- ・例えば、ADHDの子どもが落ち着きがなく、強い指導をされてしまうというようなことがあり、そのような子どもが大きくなって非行の問題や引きこもりの問題につながっている場合がある。
- ・学童期とか中学期でしっかり支えてあげる、愛着障害とまでも言わなくても愛着に課題を抱えている子どもを何とかケアしていけるような、ネットワークをうまく使って機能するようなセンターにさせていただくと嬉しい。

(長内市長)

- ・発達支援センターについては実際の通園での療育も行うが、一番何が違うのかという
- と施設だけではなくて一生涯を通じて支援できるように、こども園、小学校、中学校などと連携し、チームアプローチができていなかったところを、その人の経過が分

かるように情報共有をしながら、それを一元管理して人的な資源も活用し、早く分かって早く治療や支援に結びつけることができたらと思っている。

【「豊中市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」素案について】

(奥田委員)

- ・四つの柱について、全体的に見るとまとまってないように感じる。
- ・一つめの「すべての子どもが自分の人生を切り拓く力を育む」という方針とその後の二つめから四つめまでの方針が内容のトーンが違うのではないかと思う。
- ・四つめの「生涯学び続けられるまちを創る」というのは、生涯学習という視点を中心に置いているならば、文化芸術と生涯スポーツというのは違う部分があると思う。
- ・文化芸術とスポーツは教育委員会から市長部局に移管されている。
- ・豊中の教育及び文化の振興に関する総合的な施策というところで、文化とスポーツは別立てにすべきではないか。
- ・もっと生涯学習というものに力を入れていくべきであり、中央図書館や郷土資料館構想も含め、市民の学習機会をどこでつくっていくのか、ハード・ソフトの両面合わせ、その点に力を入れるべきであり、そこから次の新しい地域づくりの人材が生まれてくる、このような事を促進していかなければならないと私自身は考えている。

(森委員)

- ・方針の1と2は「子どもが」という内容だが、「安心して子育てができる環境づくり」というのは主語が子どもではなく保護者などではないか。
- ・「地域」や「担い手の育成」、「誰もが学び続け活躍できる」というキーワードはあるが、市民活動やNPOといった言葉が出てこない。
- ・担い手を育成するのも大事だが、現在活動しているNPOや人材をどのように活用していくのかだったり、生涯学習については、学んだ人が学んだことを活用できるような支援についても触れていただきたい。
- ・地域で子ども達を育むのであれば、地域の団体と学校がどのように協働、連携していくのかについて、より一層支援して促進していくのかということも示していただきたい。

(藤原委員)

- ・方針の一つめとその他の方針の分け方に少し違和感がある。
- ・「すべての子どもが自分の人生を切り拓く力を育む」、そのために学校教育の充実もしますし、学校園、地域との連携もあると思う。
- ・二つめから四つめの方針が、一つめの方針が前提となったような方針に見える。

・この大綱のタイトルの「豊中市の教育」というのは、子どもも大人も関係し、「文化の振興」という部分で、文化というのが四つめの方針の生涯学び続けられるのは、結局は地域共生社会につながり、子どもが人生を切り開く力を支えていくと私は思うので、生涯学習というまとめ方も少し狭いように感じる。

・学んで、それを活用し、連携するということなので、学びというものをもう少し広く捉えるのかどうかということはあるが、方針については、再検討の余地があると感じる。

(奥田委員)

・総合計画の前期基本計画の中に、健康と生きがいつくりの推進とあり、施策の方向性として生涯を通じた学びの機会の充実と成果を活かせる場や機会づくりを進めますと生涯学習の理念が別立てでうたわれているので、それも含めて四つめの方針は少し再検討が必要だと思う。

・若者の活力を奮い立たせるというか活用できるような、次の時代を担う若者の活力をどのように増進させるのか、就労支援だけではなくて活力をどこかでうまく活かしてもらえるような、このことを応援していく施策も必要だと思う。

・前回の大綱の策定の際も申しあげたが、若者にターゲットをあてて、総合的に後押ししていけるような仕組みと支援の方策が必要だと思う。

(長内市長)

・今いただいたご意見について、調整させていただき、次の機会に再度素案をお示しさせていただく。

(岩元教育長)

・この大綱は、A4サイズにまとめられて、簡潔に分かりやすくという視点でこの形だと思う。

・今いただいたような意見を盛り込んだとしたら分量的にA4サイズでは収まらないのではないかと。

・前回の大綱はA3サイズで、他市をみるとA4サイズのところもあればA3サイズのところもあるが、どちらでも対応は可能だという理解でよろしいかと。

(榎本部長)

・まずは本日いただいたご意見を踏まえ、内容をきっちりとまとめ、その次にレイアウトに関してA3サイズにするのかA4サイズにするのかを検討していきたい。

(長内市長)

- ・本日ご提示させていたのは素案なので、いただいたご意見を集約しながら、大綱としてまとめていくこととなる。
- ・本日のご意見を参考に事務局で進めていくということでよろしいか。

(異議なしの声あり)

(長内市長)

- ・大綱の策定にあたりましては、パブリックコメントを行う必要もある。
- ・次回には、本日の意見などを集約し修正してお示しさせていただき、次回会議におけるご意見等を踏まえて原案を作成し、パブリックコメントの実施へと進めていきたい。

【その他】

(事務局)

- ・次回は、9月26日・火曜日の9時30分から総合教育会議を開催
- ・本日のご意見を整理し、再度お示しさせていただき、ご意見等があれば修正する。
- ・その後、パブリックコメントを行い、パブリックコメントでの意見をみなさまにご紹介させていただいたうえで、意見をいただき最終的にこの大綱をまとめていきたい。